

美術史学専攻（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

美術史学専攻は、美術史について幅広く専門知識を修得し、美術の生成と受容に関する問題や美術と社会の関係に関する歴史的かつ現在的論点など様々な美術史上の課題についての知見を獲得し、自らの研究課題を探求できる人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

美術史学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（美術史学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 美術史についての高度な専門知識と専門性を修得している。

（思考・判断・表現）

2. 美術史の様々な課題について、専門的な知見によって考究し、その過程や結果を論文・レポート・プレゼンテーションなどを通して報告、表現することができる。

（関心・意欲・態度）

3. 自身で目標を設定し、その研究課題を自身で追及していくように取り組むことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

美術史学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 修士論文作成に向けて、研究課題を探求し、その課題に相応しい研究視角や先行論文の読み込み、作品情報の収集など調査研究の方法を身につけるために、「日本東洋美術史演習」「西洋美術史演習」「芸術学演習」を配置し、同時に研究成果のプレゼンテーションスキルの修得も目指す。（思考・判断・表現）
2. 専門知識を身につけ最先端の研究成果への理解を深めるため、「日本東洋美術史特殊研究」「西洋美術史特殊研究」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）
3. 美術館、博物館に関する知識の修得を通して、学芸業務への意欲や関心を深め、幅広い視野で社会と文化財について考察する力を身につけるために「美術館学特殊研究」

を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)

4. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「修士論文指導」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現)
5. 専門的知識を幅広く身につけるため、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修及び単位の修得ができ、学外の研究機関の設置する課程・研修会等の履修により設定された単位の履修を認める。(知識・技能)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
4. より広い視野による研究課題の探求を目指し、実作品に対する知識と分析能力を身につけるために、随時、作品及び資料の現地調査のフィールドワークを行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

美術史学専攻 (博士前期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 志望分野を学ぶための基礎的な専門知識や研究に必要な語学力を備えている。

(思考・判断・表現)

2. 自身の見地から物事を論理的に考え、その内容、仮定、結果などを的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に諸問題へ関心を持ち、その関心をより深めるために学問、調査、研究を行う意欲がある。

以 上